



本之力を、生きる力に。 多様性を尊重し、平和(シャンティ)な社会の実現に向けて

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 事務局長／アフガニスタン事務所所長 山本 英里

シャンティ (=平和・寂靜) な社会を目指して

タイ国内のカンボジア難民キャンプでの教育文化支援を行うことを目的に、シャンティの前身となる団体「曹洞宗東南アジア救済会議 (JSRC)」が設立されました。JSRCの有志が「シャンティ (平和) な社会の実現」のための活動を継続するため、1981年12月10日に設立総会を開催して組織となり、その後、法人格を取得し、より公益性の高い組織として活動をしています。組織名になっているシャンティとはサンスクリットで平和・寂靜といった意味があります。



カオイダン難民キャンプ常設図書館 (1981年)

教育には人生を変える力がある

私たちの教育文化支援活動は、子どもたち一人ひとりの権利を保障すると共に、民族、言語、文化、宗教といった人間の尊厳が守られ、多様性が尊重される社会を目指す中で不可欠だと考えています。1冊の本を通して、子どもたちの未来を切り拓く力をつけることができると信じて活動をしています。アジアを中心に、7カ国8地域で、絵本の出版など学ぶための本や教材作成、学校な



カンボジアで出版した民話絵本



難民キャンプの図書館での読書 ©YoshifumiKawabata

ど子どもたちが安心して学べる場所、その国々で教育を担っていく人材育成を行っています。そして、どのような状況下であっても学びたいと願う人たちが学べる学校外での教育の機会の提供といったノンフォーマル教育支援も行っています。

本を通じた学びの可能性

活動の柱である、読書の推進は、本を通して子どもたちが読み書きや知識を獲得するだけではなく、共感力、コミュニケーション力、創造力、批判的思考といった人が社会で生きていくために必要な力を育ててくれます。紛争や貧困などで学ぶ環境が限られていても、読書を通



難民キャンプの図書館「おおきなかぶ」(福音館書店)
©YoshifumiKawabata

してさまざまな世界を疑似体験することで、子どもの成長に必要な経験をえることができます。また、子どもにとって大人からの愛を感じる場はとても重要です。本の読み聞かせを通して、子どもが愛情を感じる時間が、特に困難な状況にある子どもたちにとって必要であり、私たちが大切にしている活動です。

市民参加の促進を目指して

活動の柱である本は、質の高い本が少ない海外へ日本の絵本を現地語に訳し、届けるという運動を行っています。個人、企業、学校などからもご協力を頂き毎年各地へ絵本を届けています。翻訳シールの貼り付けを通して、その国や絵本を受け取る子どもたちの状況を知るきっかけともなり、日本と遠い国の子どもたちとつながることができます。フェアトレードを通じた現地の伝統工芸を主とした商品の販売も、生産者一人ひとりの物語があり、経済的支援だけではなく、さまざまな文化や生活を伝え



左 クラフトエイド生産者 ©HiromiYasui
右 絵本セット「わたしのワンピース」(こぐま社)

ることで相互理解が深まるきっかけになることを願っています。このように市民の方が参加しやすい活動を提供しています。

日本の経験を社会課題の解決へ

シャンティは、1995年の阪神淡路大震災をきっかけに、日本国内の災害においても支援活動を展開してきました。東日本大震災、近年繰り返される洪水被害などの災害時にも、行政、地域の人々、市民団体の方々と連携をして支援活動に取り組んできました。また、地方自治体、日本の大学、社会福祉法人と連携し、日本国内で蓄積した知見、経験を海外での教育の開発支援に生かし、その国における教育手法の在り方を一緒に考えるなど専門的な立場からのご協力を頂いています。

共生する社会の構築、日本でできること

シャンティは2021年で設立40周年を迎えました。海外での支援活動を中心に行ってきた私たちは、近年増加する日本に住む外国人の方々が直面する社会課題についても何か貢献できることがないかと考えています。現在、都内で長年活動をされてきた市民団体の方々から学ばせて頂きながら、外国にルーツを持つ子どもたちの居場所づくり、コロナ禍で経済的困難に見舞われた外国人の方々への相談会を通じた支援活動を行政、法律事務所、市民団体、企業、ボランティアと連携して実施しています。

世界の紛争や貧困、そして日本国内の貧困課題など、私たちを取り巻く環境は変化し、多様化しています。相互理解を深めるために、つながっていくことがより重要になってくると思います。私たちの活動にぜひご参加ください。



日本国内での活動